

## &lt;総評&gt;

初の共通テストは、晩年のセンター試験と大差ない内容だった。試行問題のようなコンピュータソフトを用いた問題は無く、会話文問題もわずかに2か所であった。制限時間が10分長くなった分、読む量が多くなった。特にデータの分析に関する問題は文章量が膨大だが、実のところ単なる視力検査であり、そういう意味での速読が要求される。計算量は第3問を除けばかなり少なく、時間的にはそれほど逼迫しない。

出題には若干偏りがあり、昨年に引き続き必要と十分の判定問題が出題されなかった。命題・論理に関する出題は無くなり、2次関数に関する出題が極端に少なくなった。この点は試験の品位を下げたと言わざるを得ない。

全体として、試行問題や各予備校が実施した模擬試験にあったような気を銜った問題は無かった。試行問題が難解すぎて平均点が低かったため予想通りではあったが、構えていた受験生にとっては拍子抜けする部分もあっただろう。対策としては、基礎事項の深い理解、数式や条件が意味するところをきちんと説明できること、その問題が要求していることを正しく把握できることが必要である。単に問題の解き方だけを記憶するのではなく、「何を求めるために何をするのか」といった数学の論理の本質を学ぶべきであるということがよくわかる問題だった。

## &lt;大問別講評&gt;

## ◆第1問〔1〕 数学Ⅰ 2次方程式、無理数の評価 易

ただの計算問題。(3)は実質整数問題であるから、条件を作ったらしらみつぶすと決心すればよい。

## ◆第1問〔2〕 数学Ⅰ 図形と計量 やや易

正方形の面積の大小を余弦定理に絡めてみたり、辺の大小と正弦定理を絡めてみたりと出題に工夫は感じるものの、問題自体が易しくなってしまうと本末転倒か。「こういうことかな」という感じで最後までスルスルと進めてしまう。

## ◆第2問〔1〕 数学Ⅰ 1次関数と2次関数 標準

陸上部員以外には耳馴染みのない題材だったが、1次関数の値域を考え、誘導にしたがって2次関数の最大値を求めて、最後に嫌な筆算(割り算)をするだけである。しかし、無駄に問題文が長いと、前のページに戻って値を確認するような場面が多くなり、時間がかかってしまった受験生が多かったかもしれない。太郎さんはインターハイレベルの走者らしい。

## ◆第2問〔2〕 数学Ⅰ データの分析 やや易

昨年に引き続き今年も変数変換が出題されないどころか、分散や相関係数等の計算もなく、完全に視力検査になり下がった。昨年は47個の箱ひげ図が並んだが、今年は24個であった。だいたい半減しているので、来年は12個だろうか。

## ◆第3問 数学A 条件付き確率 標準

太郎と花子の会話には中身が無く、読む価値すらない。ただただ煩雑な計算をこなしていくだけだが、正答率は低くなるだろう。箱の数がだんだん増えていって、ついには4つになった。単純作業の繰り返しで辛い。

## ◆第4問 数学A ランダムウォークと不定方程式 標準

互除法は今年も無し。もう飽きたのだろうか。後半はただのパズル。すごろくをやっているような気持ちになる。「計算問題ではない」と判断できた人から勝ち抜ける。

## ◆第5問 数学A 三角形と円 やや易

易しかった一昨年、昨年に引き続き今年も易しかった。第3問、第4問と比べるとページ数も活字量も少ない。相似、方べき、相似と進めて、気が付けば解き終わる。